

幸福度研究

日本GNH学会会長

緒 方 修

(聞き手 池脇克則)

経済的指標より国民の幸福感を重視するブータンが注目を集める中、日本でも日本GNH学会が発足したとの報道がありました。その内容と今後の方針について、また海外の幸福度研究や日本の内閣府の研究も含めてご教示ください。

(日本GNH学会会長 緒方修教授に)

<石川県勤務医>

池脇 緒方先生、2011年にブータン国王夫妻が来日されて、国民総幸福度が注目されましたね。

緒方 はい。GNH (Gross National Happiness) といって、先代の国王が30年ぐらい前にスリランカの首都コロンボ (当時) で発表したのです。そのときは、全然相手にされていなかったのです。ところが、このご時世になってきて、GNPがどんどん増大してきて、それだけで人間は幸せなのかという見直しがあって、特にフランスなどは、アマルティア・セン、スティグリッツら有名なノーベル経済学賞を受けたような人を集めて研究・報告したのです。

池脇 そういう意味では、日本はまだ高度成長期の考えですね。

緒方 幸福などというのは、生産量が増えればいいのだみたいな、まだそういうのが残っていますけれども。

池脇 そのころ、ブータン国王が言っていることは、「なに言ってんだ」ということだったのだと思いますけれども。

緒方 そういことですね。

池脇 この時代になって、日本人も、そういった心の豊かさというものが大事なのだということが、本当に素直に実感できる時代になって、それで注目されているということですね。

緒方 そうですね。

池脇 ブータンというところは非常に小さな国で、1960年以前はいわゆる鎖国で、それから国を開いていくとい

うときに、国をどういうふうに持っていかうかという中で、こういったことが議論された。

緒方 全くの鎖国ではなく、ネパールなどの隣国とは交流はあったのですが、ただ、外国人は入国できなかった。昔の人のレポートを読んだりすると、1年半も待たされたとか、なかなか入れなかったのです。

ヒマラヤの小国とよくいわれますけれども、北がチベット、今中国領ですけれども、そこが13億人もいる大国です。それで、南がインド。北が標高7,000m級のヒマラヤ山脈で、南が200m。要するに、傾斜地にあるような国なのです。そこで産業は何ができるかといったら、農業人口は43%くらいですけれども、収穫物を外国に出すことは考えられません。そうすると、地下水を利用して特殊なダムをいっぱい作ったりしていますけれども、水力発電による電力をもっぱらインドに売って、電力代が自分のところの収入になっている。それが主な収入源です。わずか70万弱の人口ですから、それで十分やっていけるという、非常に特殊な環境なのです。

池脇 さて、国民総幸福度ですが、何年か前の国民調査で97%の方が幸せと答えていますね。

緒方 これも向こうに行って、日本人のシニア海外調査隊の人に聞くと、「幸せですか、どうですか」と聞かれ

るから、「幸せです」と言うほかはないでしょうと、皮肉な見方もありました。ただ、ほかにあまり比べるものがないところで、自分自身で満足して生きている。テレビとかラジオとかが自由に入るようになったのは1999年、わずか13年前です。ほかと比べてうらやましいとか、そういうものはなかったわけです。

池脇 今でも、一般的な先進国に比べたら所得も低いということですし。

緒方 低いです。とても低いです。

池脇 その中で、100%に近い方が幸福だと感じている。それは、国づくりとして、どういうところを重点的にやってきたからでしょうか。

緒方 例えば、田舎に行っても、どこに行っても、英語が全部通じます。これはすばらしい戦略です。エリート層はすべてアメリカとかイギリスの大学などを出て、つまりヨーロッパ・スタンダード、アメリカ・スタンダードを知っているわけです。それで我が国は、こういう小さくて、大した産業もないところで、何をすべきか。やはり人材育成しかないということで、シンガポールのような国を目指すかどうか知りませんが、僕はありうろと思っているのです。

ただ、労働者は全部、インドから来ている人、ネパールの人とか、そういう外から下請労働者を調達してきている。自分たちだけが、言ってみれば管

理層というか、そういうことが成立するかなという危惧もあります。ただ、国王以下、エリート層は英語もペラペラ、国民もほとんど全員がペラペラですけれども、そういう国づくりを目指してやっていて、半ば成功していると言っていいと思います。

池脇 ブータンと日本というのはけっこう関係が深いと聞いたのですが。

緒方 そうなのです。向こうには国王がいらっしゃる。こちらは天皇一家がいらっしゃる、たしかオバマ米大統領が来たときの話の時間よりも、ブータン国王夫妻が来たときの時間のほうが長かったはずですよ。それだけ王室も、ベルギーなどもそうですけれども、王室同士のお付き合いというのが、何となく芯があって、みんな納得するような。特に日本人というのはどこかで権威を求めるとか、ずっと続いているところをありがたがるということがあります。特に若くて、新婚旅行にわざわざ日本を選んだ国王に親近感を持ったのでしょうか。

池脇 先ほど先生が言われたように、非常に傾斜の強いところで、おそらく農業をするにもある程度の技術が必要だと思うのですが、そのあたりに日本の農業の支援というのがあるのでしょうか。

緒方 そうです。京都大学の中尾佐助さん、今、岩波現代文庫で『秘境ブータン』という本が再刊されています

けれども、そのお弟子さんで西岡京治さんという方が、向こうに20年以上いらした。向こうで「サー」に当たるのが「ダショー」というのですが、「ダショー西岡」といって、ブータンの農業は日本人の西岡がやったのだと、みんな知っています。現在日本人が80人ぐらい、JICAを中心にいますけれども、日本はたいへんな憧れの国としてみられています。

池脇 そういったことで、日本も内閣府は、いわゆる豊かさということで、今何かアクションを起こしているのでしょうか。

緒方 内閣府が出したのものもありませんし、経済学者の中には罵詈雑言でいろいろ文句を言っている人もいます。ただ、そういう幸福というものを、県民ごとの発表がいいのかわかりませんが、少なくとも幸福度の向上を目指す。ということは、今まで生産一本やりでしたが、これが増えればいいのではないかという考えが続いてきた。そこに大きく修正をかけるというか、そういう働きが大事なのではないでしょうか。

いったい幸せとは何だろう。特に3・11以降は、絆とか、相当ずたずたにされてきたものをもう一回見直そうと、そういう動きになってこないか、幸せというのはないのではないのでしょうか。

池脇 確かに日本は自殺者が年間3万人もいて、ストレス、しわ寄せがい

っているという、非常にひずんだ社会になってきましたので、ブータンというのは貴重な存在であると思うのですけれども。日本以外の国でも、ブータンのそういったことが注目されているのでしょうか。

緒方 そうですね。ヨーロッパ各国も、半分行き詰まっているところもありますし、ブータンが特別注目されているということでもないのでしょうかけれども、幸せとは何かというのを各人、問い詰めてというか、今の生活ぶりでもいいのかという、生活の見直しまで含めて、ムーブメントが起きているような気がします。

池脇 健康・医療という面ではブータンはどうなのでしょう。

緒方 伝統医療もあるのです。ただ、国が小さいものですから、それから交通のアクセスもあまりよくありませんので、例えば中耳炎などになったら、現代の医学ですぐ治す方法もあると思うのですけれども、どうしても病院があるところまで来るのに時間がかかって治せなかったりとか、そういうところもまだあると思います。

医療費は全部無料です。例えば、難病とか、がんなどはあまり治療体制は進んでいませんけれども、治療を必要とするときはタイやインドまで看護師がついて行くとか、そういう意味ではある程度はやっています。

池脇 そういう意味で、福祉、教育

に関しては、我々が思っている以上に手厚い国だということですね。

緒方 手厚いといっても、規模的にどれぐらいかわかりませんので、それはもちろん日本のほうが圧倒的に進んでいると思います。ブータンへは医師も一緒に行ったのですけれども、伝統医療をもうちょっとちゃんと見直すようなかたちで、悪い意味での医療の近代化の道をたどってほしくないというのが彼の印象でした。

それと、死生観ですが、四十九日たったら何かに生まれかわるということで、お墓も何もないのです。ストウーパというのは卒塔婆のことですけれども、ミニストウーパといって、おにぎりぐらいの小さな三角形の、骨と土を混ぜたものを、道のその辺に置いてあるのです。これは2～3年でみんな消えてしまいます。要するに、土にもう一回戻るのだと、循環していくという考えです。

それも僕は学ぶべきだと思います。日本の、いってみれば葬式仏教みたいな、やたらにそこだけ充実して、生前のことはないがしろにされているのではないかという、その反省もすべきだと思います。

池脇 そういう価値観というのは、人種あるいは宗教によっても多分違うと思うのですけれども、同じアジアであるブータンと日本は、ヨーロッパとブータンとを比較するよりも、価値観

が共有できそうな気がします。

緒方 そうですね。日本GNH学会というものをつくって、皆さんになるべく訴えかけて、その辺を考えましょうと言っているところです。

池脇 ありがとうございます。

※ブータンの現地レポートを詳しくお知りになりたい方は、『ブータンから考え

る沖縄の幸福』（沖縄大学地域研究所叢書—芙蓉書房出版）をご覧ください。

※日本GNH学会は誰でも入会できます。

お問い合わせは、

TEL：03-3813-4466

メール：info@js-gnh.org

ホームページは<http://js-gnh.org>「日本GNH学会」—これまでの活動やニュースレターが見られます。